

## 瀋陽駐在員事務所

### 【中国・金利引下げの狙いは？】

中国の中央銀行である中国人民銀行は 11 月 21 日に、突然利下げを発表しました。今回の特徴は、特に貸出で長短の金利差を縮小させていることです。例えば期間 6 か月以内と 5 年超の金利差は前回 0.95%あったのに対し、引き下げ後は 0.55%に縮小しています。中国では融資期限到来時は、自己資金での決済が必須で、日本のような「書換」は制度上認められていません。このため、融資期間が短期になるほど財務諸表を金融機関に提出する頻度が増加し、財務内容が悪化している企業は再調達不能となるリスクも増えます。今回はこうした事態を極力回避し長期間安定的な資金調達を促す狙いがあるものと思われます。また、11 月 30 日には預金保険制度の草案が発表され、50 万元（日本円約 10 百万円）までの元本保証、破たんリスクに応じて預金保険料率を設定するなどの骨子が発表されました。これも金融不安や理財商品などへの資金散逸を極力回避しようという意図が見えます。中国当局が発表する統計数値を見ても以前の高成長期から調整局面へフェーズが移行していることは否定できません。

種類	期間	前回	今回	引下幅
普通預金	-	0.35%	<b>0.35%</b>	—
通知預金	7日	1.35%	<b>1.35%</b>	—
定期預金	3か月	2.60%	<b>2.35%</b>	0.25%
	6か月	2.80%	<b>2.55%</b>	0.25%
	1年	3.00%	<b>2.75%</b>	0.25%
	2年	3.75%	<b>3.35%</b>	0.35%
	3年	4.25%	<b>4.00%</b>	0.25%
	5年	4.75%	<b>4.75%</b>	—
貸出	6か月以内	5.60%	<b>5.60%</b>	—
	6か月超～1年以内	6.00%	<b>5.60%</b>	0.40%
	1年超～3年以内	6.15%	<b>6.00%</b>	0.15%
	3年超～5年以内	6.40%	<b>6.00%</b>	0.40%
	5年超	6.55%	<b>6.15%</b>	0.35%

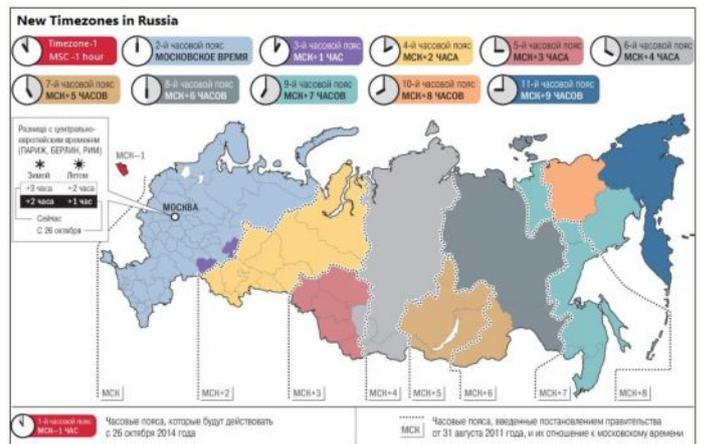
今回の利下げは収益状況が悪化している中国内の中小金融機関にとっては収益の更なる悪化につながる面もあります。感情や政治関係は別としても日本経済と密接な関連があるだけに、今後の中国当局の金融政策に注目していきたいと思います。

南 敏律

## ウジノサハリンスク駐在員事務所

### 【時差による恩恵】

日本とは違い東西に広大な領土を有するロシアでは 11 本の時間帯（タイム・ゾーン）があります。ロシアで最も基準となる時間帯は「モスクワ時間」でモスクワ+3、モスクワ+7（サハリン州）などと数えます。通常経度が 15 度東へ進むごとに時間は 1 時間早くなります。サハリン州はモスクワより 7 時間早いこととなります。例えば、ウジノサハリンスクを朝 9 時（モスクワ時間午前 2 時）にモスクワに向けて発つ（飛行時間約 8 時間）とモスクワ着が午前 10 時（ウジノ時間午後 5 時）となり、体調に異変（時差ボケ）が生じます。但し、私の様に乗物に乗ると何処でも寝られる人は時差ボケとは無縁です。



このロシアの長い時差を上手くビジネスに活用し、優位性をアピールしているのが当行のルーブル送金です。ロシア極東から日本へルーブル送金をする場合、モスクワのメガバンクを通じて東京、そして北海道へと送金されます。例えばモスクワで何か問題が生じた場合、ウジノサハリンスクに連絡しようとしても寝ている時間のため翌日の連絡となるわけです。そしてウジノサハリンスクから回答する時は、今度はモスクワが寝ている時間で翌日回答となり、これだけで 3,4 日はかかり、着金までは更に数日間要します。ところが、当行はロシアの銀行（VTB、ズベル銀行のウジノサハリンスク支店）に決済用の口座を持っていますので、当行ルートで送金すれば、何か問題が生じてもその日の内にリアルタイムで照会ができます。また、日本との時差も僅か 1 時間（銀行営業時間がほぼ同じ）ですので、2,3 日で安心して資金を受領できます。海外とのビジネスに於いて、距離が近い（時差が小さい）と言う事はそれだけでメリットが有る訳です。

三上 訓人

## ウラジオストク駐在員事務所

## 苫小牧港ポートセールスについて

11月11日～15日、岩倉博文苫小牧市長をはじめとする苫小牧港利用促進協議会の訪問団がウラジオストク市及びナホトカ市を訪問し、苫小牧港の魅力をもPRするポートセールスを行いました。昨年、開港50周年を迎え、道内最大の貨物量を誇る苫小牧港との物流を拡大し、貨物量の増加につなげることを目的にしたものです。

11月13日にウラジオストク市のヒュンダイホテルで「苫小牧港セミナー in ウラジオストク」を開催したほか、ウラジオストク商業港とナホトカ市のポストチヌイ港の視察、行政関係者や港湾関係者との意見交換などを行いました。



セミナーの様子

セミナーにはロシア企業や現地に拠点を持つ日本企業など約50名が出席し、岩倉市長が挨拶で北海道とロシア極東の経済交流に向け、苫小牧との海上輸送の拡充についてお願いしたいと発言した後、港湾取扱貨物量や国際コンテナターミナルの概要など苫小牧港の特徴についてプレゼンテーションを行い、苫小牧港の地理的優位性や充実した航路等を説明しました。

昨年、苫小牧港とウラジオストク港などを結ぶ定期コンテナ船が18年ぶりに復活し、今後も発展が見込まれるロシア極東との物流を拡大していくための第一歩につなげたいとの思いが感じられるポートセールスとなりました。

伊藤 清平

## カシコン銀行

## 「北海道??」

先日、出張でタイ北部の中心都市チェンマイへ行ってきました。

チェンマイ市はランナータイ王国の首都として発達した都市で、廃国した現在も北部の文化・経済の中心です。チェンマイ県知事によると、人口は約160万人、登録されていない学生や出張などのビジネスマン及び観光客等踏まえると200万人都市となるようです。人口ではその地位に無いようですが、文化や歴史等を踏まえた都市の格という意味でバンコクに次ぐ2番目の都市とされています。

チェンマイ県はタイ最大の面積を誇る県で、農産物・畜産物等はタイ国内でも有数の県。気候はバンコクより圧倒的に涼しく、乾季(11月～1月)は最低気温15度以下になることもあり、その気温差を利用した苺などの作物も栽培されています。もちろん気温は違いますが、久しぶりに涼しいと感じた空気でした。札幌のような穏やかな都市部も見られ、少し車を走らせると起伏が激しく、緑豊かな山河の景色が広がるチェンマイ。観光客は年間700万人訪れるようですが、その4割は国内旅行者とタイ人からも人気があるチェンマイ。なんとなく北海道を思わせる空気感、少しだけホームシックになりました。



ドイ・タオ農場の朝の景色



苺農場で土と同化した車で遊ぶ子ども達

伊藤 彰浩